

民俗編 目次

口 絵

執筆者名簿

第一章 衣 生 活	1	第一節 着るもの	1
一 仕事着	1	二 ふだん着	1
二 よそゆき	1	三 晴れ着	1
三 子供の着物	1		
第二章 食 生 活	20	第一節 食 料	20
一 手染めと染料	20	二 機織り	20
二 貯蔵	20		
第三章 住 居	34	第三節 食 制	34
一 食事の回数	34	二 食事のしかた	34
第四節 寝 具	11		
一 ふとん	11		
二 枕	11		
三 蚊帳	11		
第五節 洗濯と保存・防虫	14	第一節 屋 敷	36
一 洗濯	14	二 屋敷の選定	36
二 保存・防虫	14	三 傾斜地の宅地化をめぐる問題	36
第六節 手染めと機織り	17	四 屋敷がまえ	36
	17	五 付属屋	36
		六 民家の屋根	36
		七 下戸倉の屋敷	36

と母屋の建坪

第二節 間 取 り

- 一 農村部の家 二 特色のある家 三 間取り
の変遷

第四節 養 蚕

- 一 養蚕の方法

第三節 建築儀礼

- 一 地鎮祭 二 地突き 三 たてまえ
四 新築祝

第五節 特 産 物

- 一 花卉 二 きのこ栽培

第六節 畜 産

- 一 鶏 二 兔 三 山羊 四 豚 五 乳
牛 六 その他の家畜

第七節 出稼ぎ

- 一 いりとかまど 二 灯火と燃料 三 こた
つと火鉢

第八節 漁 労

- 一 戸倉町の漁業 二 千曲川における各種の漁法
三 サケとり 四 一般の魚とり

第四章 生産生業

85

第一節 農事暦と面積の呼び方

85

第五章 交通・交易

107

第一節 道と旅

107

- 一 農事暦 二 自然暦 三 田畠の面積の表わ
し方とその単位
- 一 古い道 二 昔の旅・伊勢参り 三 交通に
関した微地名とそのいわれ

116 116

第二節 農 作 物

90

- 一 主要農作物の変遷

第三節 稲作と麦作

- 一 稲作 二 麦作

第二節 交 通 施 設

121 116

98

第三節 運搬方法と運搬具	四 渡船と橋						
一 手持ち運搬	二 肩で運ぶ方法	三 背で運ぶ方法					
五 腰下げ運搬	六 車による運搬						
第四節 交 易	一 行商	二 仲買い	三 店商い				
	第五節 運 輸	一 運輸の移りかわり					
		第六章 社会生活					
		一 戸倉町の講	二 戸倉町にあった各講の概要				
		第三節 講					
		第一節 村 制					
		一 五人組	二 現代の五人組制と近隣の交際				
		三 地方三役と自治活動	四 ヨリアイ				
		五 ムラ入りと共有財産	六 年齢集団				
		七 若者組					
		第二節 族 制					
		一 親族と同族	二 マキと親類				
		三 本家と分家	四 相続				
		五 隠居					
		第一節 産 育					
		一 妊娠	二 安産祈願				
		三 出産	四 産の忌み				
		五 育児					
		第二節 婚 姻					
		一 見合い	二 緣談の成立				
		三 婚礼の儀礼	四 入家儀礼五盃事				
		六 婚礼の夜	七 里帰り				
第七章 信 仰	154	148	138	138	134	130	126
第一節 家 の 神	154						
第二節 路傍の神							
一 石神と石仏	二 道祖神	三 庚申塔	四 馬頭観音	五 二十三夜塔	六 地藏菩薩	七 十王信仰	八 その他の路傍の信仰
第三節 講							
第一節 俗 信							
一 はじめに	二 各説	三 事例					
第九章 人 の 一 生							
第一節 産 育							
一 妊娠	二 安産祈願	三 出産	四 産の忌み				
第二節 婚 姻							
一 見合い	二 緣談の成立	三 婚礼の儀礼	四 入家儀礼五盃事	五 婚礼の夜	六 里帰り	七 里帰り	
第七章 信 仰	154						
第一節 家 の 神							
第二節 路傍の神							
一 家の中に祭られる神	二 家の外に祭られる神	三 屋敷内で祭られるその他の神	四 同族神				

第三節 若者組・厄除け・年祝い

一 七五三 二 えびす講 三 冬至

一 若者組 二 厄除け 三 年祝い

第一二章 祭事と民俗芸能

234

第四節 葬 制

第一章 温泉街の移りかわり

209

一 生死の境 二 告げ人 三 葬式 四 死

第一節 明治時代の温泉

211

後の供養

一 第一次戸倉温泉の仮開湯 二 川東の大西地区に移った温泉

234

第一〇章 年中行事

第二節 大正時代の温泉街

234

第一節 正月の準備と正月

一 川西の向島に戻った戸倉温泉 二 温泉の大衆化と諸施設の拡充

215

一 正月の準備 二 大正月 三 小正月

第三節 昭和時代の温泉街

241

第一節 春 ゴ ト

第四節 戸倉温泉と文化人

241

一 節分 二 初午 三 針供養 四 やしょ

一 昭和前期の温泉 二 戦時の温泉 三 戦後温泉 四 新戸倉温泉の開湯

256

うま 五 春の彼岸 六 ひな祭 七 卯月八日

第五節 戸倉温泉と文化人

256

第二節 夏 ゴ ト

第六節 秋 ゴ ト

256

第三節 夏 ゴ ト

第七節 冬 ゴ ト

256

一 八十八夜 二 端午の節供(匂) 三 土用

一 明治末期の水害 二 明治末期の来湯文化人 三 昭和初期の来湯者志賀直哉 四 椿八郎と戸倉温泉

256

第四節 秋 ゴ ト

第八節 冬 ゴ ト

256

一 ミサ山 二 風祭り 三 彼岸 四 月見

第一節 大頭祭と戸倉町

264

一 大頭祭について 二 運営

264

第二節 御柱祭り

- 一 御柱祭りの行事の意義 二 戸倉水上布奈山神社の御柱祭り 三 御柱祭りの今昔雑話 四 川の御柱祭 五 御柱の唄

第三節 あいさつのことば

- 一 日常のあいさつ 二 改まったときのあいさつ

第三節 獅子舞い・その他

- 一 盆踊の種類 二 獅子頭と導入 三 献灯
四 地狂言・その他 五年中祭事

町誌刊行会委員名
参考文献

調査員名

話者及び資料・写真提供者名

事務局

第四節 民謡

- 一 盆踊唄 二 地突きの唄 三 長持唄
四 木挽きの唄

あとがき

第五節 童謡

- 一 子守り唄 二 手まり唄 三 遊戯唄

- 四 唱えごと

287

281

276

第一三章 口頭伝承

300

第一節 概論

300

第二節 伝説

301

- 一 石・岩の部 二 坂・峠・山の部 三 神祠
の部 四 塚の部